

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、あらゆる差別をなくし、自他の生命を尊び、知性・感性・道徳性・体力に富む、心身ともに健康な児童を保護者・地域と協働して育てる。そのため、自立と社会参加をめざし、自ら学び、考え、行動する力や個性を伸ばし、思いやりと規範意識を培い、共生社会を生きる上での基礎を育てる学校教育を推進する。 ○進んで学ぶ子 ○心やさしい子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童と共に・・・知・徳・体の調和のとれた児童を育成する学校 ○家庭・地域と共に・・・保護者・地域と協創する学校 ○全教職員と共に・・・組織として教育力を発揮する学校
○児童・生徒像	○問題解決的学習や体験的な学習を通して主体的・対話的で深い学びを追究し、知識・技能、思考力・判断力・表現力を身に付ける。 ○規則正しい生活習慣を行うとともに、いじめをしない・許さない、思いやりの心で誰とでも接し、自分を大切にする。 ○暑さや寒さに負けず、運動が好きでよく遊び、様々な運動を通して、基礎的な体力を向上させ、我慢強くなる。
○教師像	○校長のリーダーシップのもと、指導・事務・給食・施設など人的・物的な教育環境の充実に組織的に取り組む。 ○教育公務員としての使命の自覚、サービスの厳正、危機管理意識、人間性・社会性を向上させる。 ○研究、研修の日常化を図り、情熱をもって指導し、自らの指導力を高めようとする。 ○学校・学年・学級通信（全学級）等の積極的な情報発信を行い、保護者や地域、関係者と円滑な交流を図り信頼関係を築く。

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】 開校20年目を迎え、地域に支えられている学校である。学区域外通学と外国籍児童が一定数入学している現状がある。地域の商店街、4大学との連携、PTAおやじの会など保護者・地域が一体となった活動が充実している。令和3年度は開校20周年を迎え、校舍改築や校庭芝生化が待たれている。

【前年度の成果と課題】 ①学力の個人差が大きく個に応じた指導が求められるが、年々学力が向上しつつある。特に算数は校内研究の成果により、区の学力調査では全校正答率が2年連続80%を超えている。毎年、日本語が全くできない外国籍児童の適応と日本語指導が課題となっている。②基本的な生活習慣の定着率は約8割。児童は素直で明るく、高学年を中心として挨拶がきちんとできる。自己肯定感の傾向を把握する調査では前年度より増加し、自分を大切にする児童が増加している。③休み時間等によく遊ぶ。運動能力・体力調査は区の平均並み。④特別支援学級には、毎年通常学級からの転学があり安定した人数が在籍している。特別支援教室には25名を越える児童が通級している。⑤就学前施設が毎年20園を超え、子供の交流園が増加している。⑥アレルギー対応児童が30名（エピペン6名）。⑦駅近のため産・育休教員が毎年複数名いる。⑧教育への関心が高い保護者が多く、商店会、町会、PTA、各ボランティア、おやじの会等、様々な面で協力的である。⑨4大学と連携、中学校と連携した教育活動に取り組んでいる。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン（知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力等）	◎	◎	◎	◎	◎
2	約束を守り、思いやり、自分を大切にする心の醸成（規範意識・いじめの根絶・自己肯定感）	◎	◎	◎	◎	◎
3	体力・耐性を育てる（運動への意欲と体力、頑張る気持ち）	◎	◎	◎	◎	◎
4	様々な連携を図った教育を推進する（保幼、小・中学校、大学、地域等）	○	○	○	○	○

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
① 区学力調査目標通過率は、前年度を上回る。全校では国80%、算83% ② 都学力調査(5年)並びに全国調査(6年)都の平均正答率との差を+4ポイントとする。		2年－国85、算85 3年－国80、算85 4年－国82、算80 5年－国85、算85 6年－国80、算75 全校－国80、算83 都国調査－プラス4ポイント		2年－国87.0、算97.8 3年－国91.5、算90.4 4年－国79.2、算83.2 5年－国82.0、算80.0 6年－国76.2、算76.2 全校－国83.0、算85.2 都(意識のみ)、国調査なし		・コロナ禍で放課後の補習、パワーアップ教室等の中止などの影響で、下位層の底上げに課題が残るが、全体的には目標を達成している。算数は3年連続通過率が8割を超え、校内研究の成果が出ている。国語は叙述に即した読みが課題。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	朝学習 パワー アップ タイム	全児童 国語・算 数	毎週 火水木金 国・算 朝15分	担任が確認や繰り返しを行う。国語(MIM・音読・漢字等)、算数は共通してBDの他、基礎的なプリントを共通に作成し個人指導の時間を確保。	東京BDを 実施 (年3 回)	東京BDの結果を10%UP(年度末)	コロナ禍であるが3回実施。	BDの補習とはなっていない。低はMIMのクラス平均が上昇。	△
継続	放課後 教室	個別指導 を要する 児童 (国算)	毎週 1回 放課後30 分	【指導体制】算数は学習している単元の学習内容の定着。国語は文字・漢字の習得。プリント・東京BD、MIM	各課題 東京BD の実施 (年3回)	(年度末)。2月までに未達成児童に再調査し10%アップ	前期は中止。後期から実施したが1月途中で打ち切り。	なし	—
継続	夏季パ ワーア ップ教 室	個別指導 を要する 児童(国 算)	夏季休業 中10日間 (うち5 日間)	【指導体制】全教員①学習内容が定着していない児童への補充。②学習時間を確保し、個別の指導を行う。 【使用教材】教科書・プリント等	夏休み前 と後の比 較(BD)	正答率10%以上のUP	10日間のうち6日間だけ実施できた。調査未実施。	なし	—
継続	かけ算 九九チャ レンジ	2年生全 員及び未 習得児童	2年生及 び希望者 随時	【指導体制】校長・担任 かけ算九九の完全習得	校長が聞 き取る	3月までに全 員合格	約91/94達成 (3月17日現在)	家庭の協力が見られた。	○
継続	話の聞 き取り	国語	毎週1回	【指導体制】校長・担任 毎週1回の朝会での校長等の話を聴き、発達段階に応じた評価	担任が定 数化	80%以上の 児童が正確に 聞き取る	80%以上－16学級 60～80%－2学級 60%未満－0学級	規準を示し評価しやすくした。	◎
継続	定着テスト	算数	原則毎回	【指導体制】担任 算数の授業の終わりの数分、3問程度の適用問題を行い定着を図る。できない場合は中・昼休み等に指導。	その時間 内に評価	算数の時間内 80%	ほぼ毎回実施16学級、60～80%実施2学級	意識できるようになっている。	◎

重点的な取組事項－2		約束を守り、思いやり、自分を大切にする心の醸成（規範意識・いじめの根絶・自己肯定感）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学習、生活のルールを守り、他人をも思いやる心をはぐくむとともにいじめをなくす。		毎月の学習・生活目標の達成度 80% 学年末のいじめの9割解消 自己肯定感の前年度アップ	全校、全月の平均が約 89%。学年末のいじめの解消率－3月迄 85% 自己肯定感 3.34(前年度+0.01)	学校全体で意識できるようになっている	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
①基本的な生活習慣（挨拶、忘れ物、廊下歩行等）の定着を図る。	・毎月の生活目標の達成目標を設定（80%）	・生活指導目標を具現化し週ごと重点目標を設定する。 ・長期休業後に「いきいきカード」活用	1月迄の平均（なかよし学級除く） 1年－91% 2年－88% 3年－90% 4年－83% 5年－83% 6年－98%	意識の差、指導力の差など担任に負うところが大きい。	○
②いじめをしない、許さない心を培い、思いやる気持ちを育てる。	・保護者アンケートで「子供は学校が楽しい」という肯定的な回答が 85%以上	・毎日、1回は子供どうしがよい点を発表する機会や場を設定する。 ・学期末に保護者アンケート。	年度末までのいじめの認知件数（199）件、経過観察（3か月未満）は 30 件、学校楽しいー約 89%が肯定的	校庭遊びや運動制限などによる子供のストレス発散の場や機会を確保することが必要。	○
③児童の自己肯定感を高める	・hyper-QU 結果向上。「自尊感情の調査」平均値（前年度 3.33）を上回る。「ダメな人間だと思うことがある」を前年より減少（2.71）	・自己肯定感を高める場の充実（千寿の郷、商店街、地域清掃、未就園児と交流など） ・児童のよさを見つける機会や場の確保	全学級の全項目の平均値は（3.34）<前年度を 0.01 上昇>平均 3 未満の項目、<「ダメな人間だと思う」は 2.75 で前年度より 0.04 上昇>コロナ禍で体験活動は全て中止	自分も役に立っているという体験活動はできなかったが、日常での互いの良さを見つけ挨拶ができる児童に育っている。	◎

重点的な取組事項－3		体力・耐性を育てる（運動への意欲と体力）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・外遊びを奨励し、遊びを通して運動の機会を増やす。全校実施の運動を決め、体力の向上を図る。		・外遊びの定点観測 80%の児童 ・特定運動種目の2回調査と 10%増	コロナ禍で水泳指導は学級別。夏季水泳は中止。校庭遊びは分散のため調査は中止。	なし	－
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
①外遊びを奨励し、休み時間を確保する。	・学期に一度定点観測し、外遊びの人数 80%を目指す。	・個人や集団遊びを計画的に実施する。50m、反復横跳び、ソフトボール投げ	1年+0.6秒、2年+0.3秒、3年+6回、4年女+4回・男±0回、5年女±0m・男+2m、6年女 0.2m・男 1.3m	コロナ禍で運動の機会そのものが減少しているので外遊びの差が出ている。	○
②運動が好きな児童を育てる。	・体育の時間を中心として子供の技能を伸ばす工夫。（器械運動）	・体育朝会を実施し、全校への周知を図る。 ・教員の指導技術を学ばせる。	コロナ禍で未実施	なし	－

③学校全体での計画的な体力作りを実施する。	・長縄チャレンジ、短縄チャレンジ。自然教室等の開発	・年間を通して体力向上を図るための計画を立て実施する。〈自然教室含む〉	6年生の山登りハイキングは実施。短縄・長縄は学級ごとにチャレンジ	学校全体での集会は中止したが体育や休み時間に練習している	△
-----------------------	---------------------------	-------------------------------------	----------------------------------	------------------------------	---

重点的な取組事項－4	様々な連携（保幼・小・中、大学、地域等）と連携した教育を進める
-------------------	---------------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・登校渋りを少なくする。 ・交流園からの就学率の上昇。桜堤中への進学率の維持。大学・地域の教育力の活用	・1年生の登校渋りを夏までに解消。交流園から就学児童の増加。進学70%程度。4大学との連携、地域との交流学年1回、全学級の学級通信発行。	特支学級の1年生の登校渋りが解消中。幼保小の連携は1回のみ。4大学との交流はなし。進学75%。地域行事は中止、全学級で通信発行。	コロナ禍、担任の病休など不安定要素が多かった。	○

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
①幼保小の取組	教員交流2回、園児交流2回以上、訪問園増加	・保育体験、子供同士の交流機会の確保、講話園の増加	未就学児への動画作成 保育園への保護者会1回参加	5園に配付済。就学への意識付けになった。	○
②小中連携の取組	年6回＋α実施。授業研究2回	・児童と生徒の交流場面開発	対面式は1回のみ。リモート及びデータでの交流を実施。小学校の研究授業は実施（社・算・道・音・体）	授業研究を実施。外部講師を5名招聘。校内研と併用。	○
③大学、地域の教育力の活用、保護者への情報発信の工夫	4大学との連携、学年1回地域と連携した教育遠隔操作を活用した情報発信（1回以上）	・教科内外の学習の一環として招聘。（理科・音楽等） ・開かれた教育課程として地域行事への参加等 ・保護者へZoom等での発信	未来大との連携1回（プレゼン）及びボランティア学生の受け入れ 開校20周年の記念式典（来賓・PTA・6年生他）以外はコロナ禍で全て中止。	未来大の学生は他校の分まで5名追加実施。周年式典は来賓入れて実施できた。ブログの効果は大。	△

6 まとめ

（1）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

○学力向上アクションプランについて（成果）校内で算数科を通じた児童の主体的・対話的な学びの指導法を研究したことにより、子供たちに望ましい態度や学び方が身に付き、基本的な知識や技能の定着へと波及している。（課題）つまずきのある国語の設問（正答率50%未満）から、登場人物の心情を捉えることや目的に応じて整理して書くことが苦手である。算数は、筋道立てて考える力を一層伸ばすことが必要である。

（2）保護者や地域へのメッセージ

○コロナ禍でPTA・地域行事がすべて中止となり、本校の特徴でもある子供たちの個性を発揮する場がほとんどなかったのが残念である。

（3）その他（学校教育活動全般について）

○自立と社会性を育むことが学校の役割であり、コロナ禍で感染防止に努めながら教育活動の工夫を重ねている。3年間の校内研究（算数科）を通して、子供たちは自ら進んで、また諦めずに最後まで頑張る姿勢が身に付いてきました。今後も維持・継続していけることを期待する。
○ここ数年間、挨拶については学校全体で取り組んできた。その成果は最高学年の6年生の姿勢や態度に表れています。今後もTPOに応じた挨拶や返事ができることを本校の伝統となっていきたい。